鳴子温泉もりたびの会の
スタディツアー
2022年度版

鳴子温泉で
持続可能な暮らしを学ぶ

MoriTabi

森林・温泉をはじめとした豊かな地域資源に着目し新しい滞在の形を作っています

Mori Tabi

鳴子温泉もりたびの会

3つの体験を提供します
自然体験：トレッキング、スノーシューなど
文化体験：林業、クラフト体験など
環境体験：木質バイオマス事業視察受け入れなど

鳴子温泉もりたびの会は、地域内の宿泊業者・飲食業者・林業従事者・行政等により立ち上げられた協議会です。鳴子温泉地域は、これまで宴会型の宿泊施設利用や、スキーやゴルフといったリゾート開発に重きが置かれ、地域を取り巻く自然環境の豊かさが看過されてきました。当会は、森林資源を活用した新しい旅のスタイルを提案するために発足され、体験プログラムの企画立案を進めています。

大崎市の森林の約7割が鳴子地域にあることに着目し、林業従事者や温泉旅館、飲食店、教育関係者などの多様なメンバーにより、森林資源を活用した様々な体験プログラムを提供することで、鳴子地域の新しい旅のスタイルを提案します。

2018年10月18日設立

もりたびの会 の会員

林業、エネルギー

MASTERING THE FOREST SHINRIN
Sustainalife
KURIKOM くんえん木材・一般住宅製材・立木伐採買付
VESTA・CHP

教育、自然ガイド

鳴子こども園
鬼首山学校
SomeSpice
くりこま高原自然学校

宿泊

藤嶋旅館
越後屋
玉造荘
宿みやま
旅館大沼
旅館ゆさ
高東旅館
湯あみの宿 ぬまくら
扇屋

工芸・クラフト

Made in Naruko
ヤマミチ舎
工房とみはり
koshiki
こけしの岡仁
さとのわ SATO NO WA

自治体、アドバイザー

ISLAND 島創生島 你的地方最前線
大崎市 Osaki City
一般社団法人 みやぎ大崎観光公社

体験プログラム例

・こけしの森の植林
・塗師に教わる拭き漆体験
・鳴子の伝統こけし絵付け体験
・豆こけし作り体験
・親子もり歩き　メープルシロップづくり
・うらやまスノーシューツアー　潟沼を目指して
・ブナの森を歩こう！花渕山ハイキング
・サスティナヴィレッジで学ぶバイオマス利用

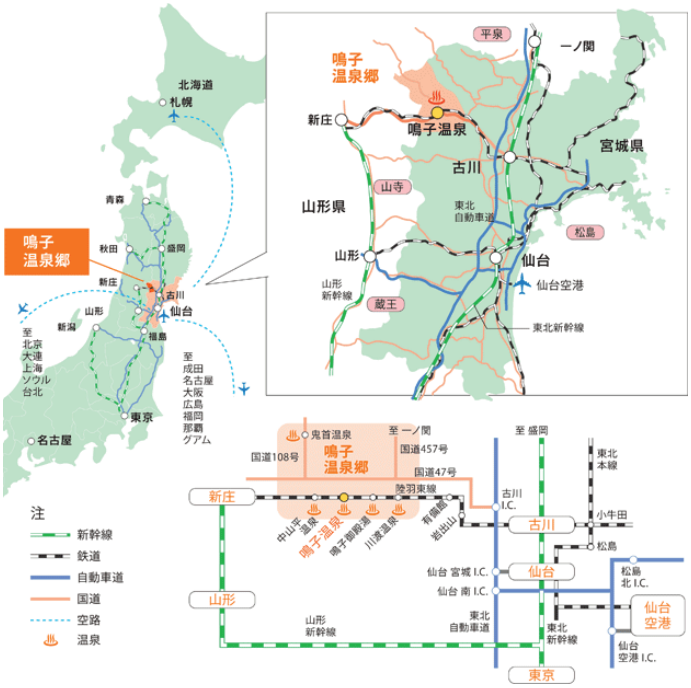
鳴子温泉郷について

宮城県北部、大崎市にある温泉郷です。鳴子温泉駅を中心に隣接する東鳴子、川渡(かわたび)、中山平、鬼首(おにこうべ)の5つの温泉地の総称で、環境省によって国民保養温泉地に指定されています。源泉総数は約370本で、7つの泉質が揃う、日本最大級の温泉郷です。

豊富な森林資源を活かして、古くから木とともに暮らす文化を育んできました。地域で作り継がれてきた「鳴子漆器」や「鳴子こけし」が経済産業省によって伝統的工芸品に指定されています。

歴史にはじめて登場するのは837年(承和4年)。国史『続日本後紀』に温泉流出の記録が自然への畏敬を込めて記されています。

域内には4つの駅があり、仙台からは1時間弱の距離にあります。新幹線・航空便で首都圏・関西地方からのアクセスも良好です。



SDGsとは?

SDGsは、「Sustainable Development GOALS(和訳:持続可能な開発目標)」の略であり、2030年までに、持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

経済を最優先にした20世紀は、急速な経済の成長を実現しましたが、その代わりに多くの環境、文化を犠牲にし、地球温暖化が進み、多くの地域文化が失われました。同時に、先進国と発展途上国の間にも、先進国内にも、経済、人権、教育等の格差がますます拡大しています。このままだと、人類が滅亡する恐れがあるため、2000年には、MDGs(MILLENNIUM DEVELOPMENT GOALS、ミレニアム開発目標)を掲げ、さらに2015年になると、より良い世界を目指すSDGsを掲げました。

鳴子温泉もりたびの会は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

SDGsが掲げる17の目標は、環境(海洋、森林、水等)、貧困、人権、教育、ジェンダー、経済等17分野により構成されています。これらはバラバラに存在しているように見えますが、実は深く繋がっており、影響し合っています。一見するとあまり関係ない様に思える取組も、実は他の複数の目標に影響しています*1。

また、SDGsは地球温暖化防止といった環境保全や文化保全、人権保護のための目標と思われがちですが、実は経済の安定も求められています。例えば観光の分野において、持続可能な観光を実現するためには、観光地の環境や文化を保護しながら、観光を通じた経済成長も求められています。環境・文化・経済活動が持続可能の形にならないと、観光産業自体も持続可能な産業になりません。

SDGsは世界共通の目標です。すべての国・地域、そしてあらゆる立場に立っている人間全員が主役であり、協力し合い、行動することが求められています。SDGsの実現には、私たち一人ひとりが現状を知った上で、知恵を出し合い協働することが重要です。

*1　参考文献
持続可能な地域のつくり方――未来を育む「人と経済の生態系」のデザイン、筧　裕介

循環型森林ツーリズムのコンセプト

森林はCO2を吸収固定するとともに、木材として建築物などに利用することで炭素の長期貯蔵が可能です。また、木材は鉄など他の資材に比べて製造時のエネルギー消費も少なく、省エネ資材と言えます。加えて、化石燃料由来のプラスチック製品やエネルギーの代替としてバイオマスを利用することができます。

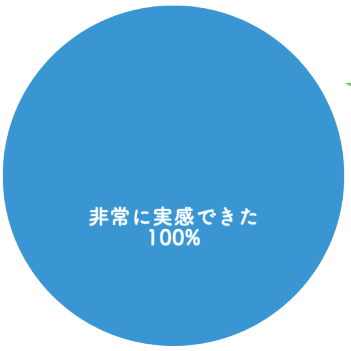
森林・林業・木材産業が連携することで、「伐って、使って、植える」資源の循環利用により持続性を高め、同時に経済成長を目指す「循環型森林」のモデルが鳴子温泉では実践されています。鳴子温泉もりたびの会では、鳴子温泉での滞在を通じて、伝統的な木と湯の文化に加えて、地域で実践される「循環型森林」モデルに触れることで、持続可能な社会づくりについて考える、実践の場づくりに取り組んでいます。

コンセプト映像がご覧いただけます

林野庁 - 平成 26 年度森林及び林業の動向 より抜粋

多くの方から、SDGsを実感できたと声をいただいています！

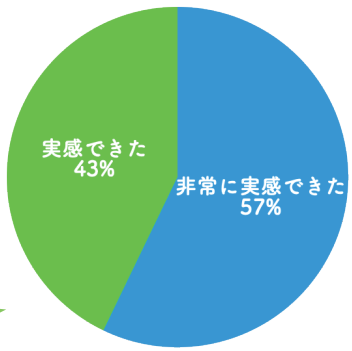
社会人



ガイドの説明がとても詳しくて、さらに質問をなげかけてもらって考えたり、こちらからも質問をしたり飽きずに楽しめた。ブラタモリしている気分だった

かたい感じではなく、気軽に、楽しみながら知ることができた

学生



どの体験もつながりがあり、それぞれのポイントが抑えやすかった

持続可能な社会に向けて、現在進行系で取り組まれているものだということを実感することができた

テーマ①「新しい森の循環」

一般的に、長い年月をかけて森で育てる杉の木の何割が価値に変わるかご存知ですか。鳴子温泉では建材や工芸に加えて、「エネルギー」の形で木々を利用する、新しい森の活用が始まっています。

木を植えて育て伐採する林業の現場と、製材・建築の利用の現場が密接につながることで生まれた、サスティナヴィレッジと名付けられた地域産の木材をふんだんに使った集合住宅。未利用材・枝葉、端材を適材適所で使い分けて電気と熱を作り、暮らしのエネルギーとして住宅に供給しています。建材と燃料となる木材を供給するのは、川渡温泉街のうら山に広がるエコラの森。きこりのNPO法人しんりんが管理をする森です。

地域でも資源の循環を意識した取り組みが行われています。桜井こけし店では、次の世代も地域でのこけし作りを継続できる様、こけしの材になるミズキの植林活動をエコラの森で行っています。

サスティナヴィレッジ鳴子

持続可能な循環型・脱炭素型の地域協働プロジェクト

→7ページへ

エコラの森

100年の森づくりに取り組む再生をつづける鳴子の森

→8ページへ

桜井こけし店

受け継がれる伝統と次代に継なぐミズキの植林

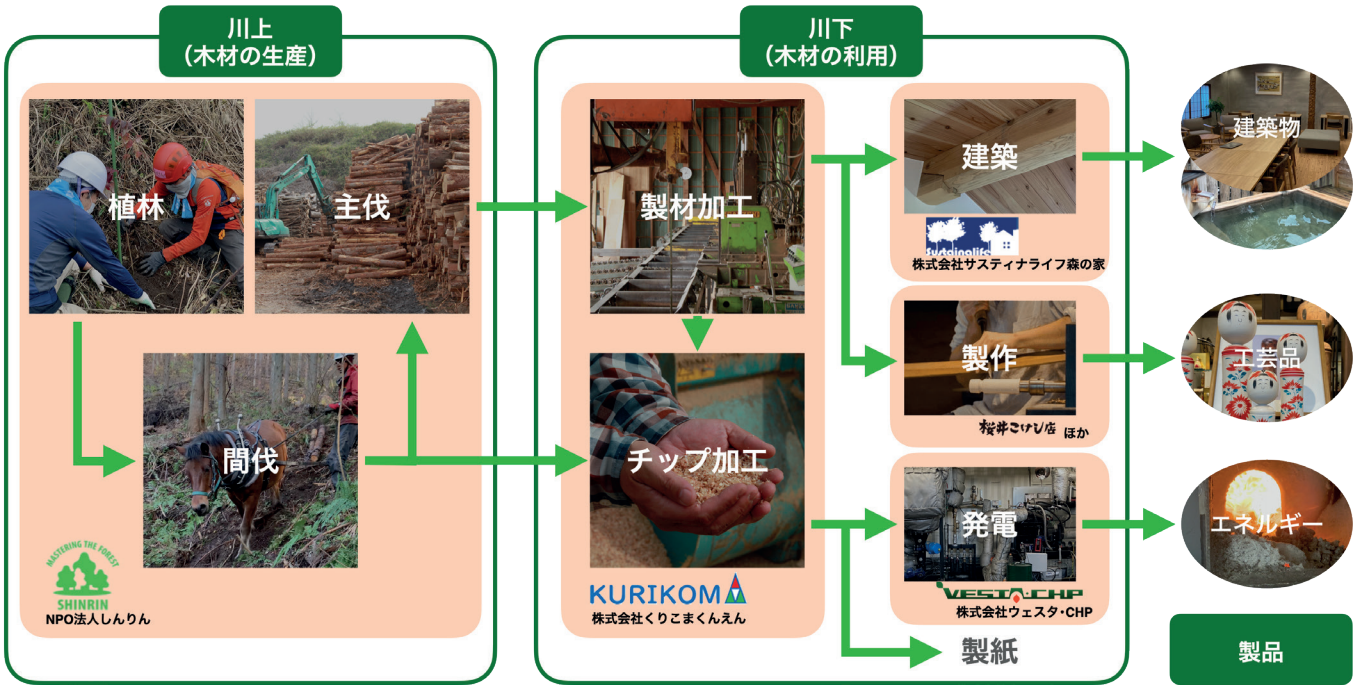
→12ページへ

行程

サスティナヴィレッジの見学、エコラの森のもり歩き、桜井こけし店の訪問を通じて、鳴子温泉を舞台に森林を介在にした循環を感じる一日のコースです。

サスティナヴィレッジの見学（1.5時間）
→昼食（1時間）
→エコラの森のもり歩き（2時間）
→桜井こけし店の訪問（1時間）

川上と川下の連携・サプライチェーンの構築



テーマ②「歴史を重ねた水の循環」

「もり」が生み出す資源は木材だけではありません。私たちの暮らしに欠かせない水もまた、大切な資源です。森林に降り注いた雨は地面に浸透します。森の土壌はスポンジの様に小さな隙間を多く有しており、雨水を浸透させる能力は草地の2倍、裸地の3倍とも言われています。森に浸透した水は、土壌が蓄えたミネラルを溶かしながらゆっくりと流出します。大崎地域では、森が生み出す豊かな水資源を活かし、水田農業によって食料と生計を維持してきました。

山間部では用水の確保が困難なために人力により水路を開削し、冷たい沢水を温めてから水田に引き込むなどの創意工夫を行ってきました。鳴子温泉西部の中山地区には370年前に作られて以来、稲作により地域経済を支え続けている水路「南原穴堰」があります。

水は時として洪水や干ばつ等の災害を引き起こします。鳴子温泉では1957年に竣工した「鳴子ダム」が江合川を流れる水を適切に管理しています。洪水の調整、農業用水の確保、発電によって、地域だけでなく、河川でつながる大崎耕土の暮らしの安全を守っています。

また、森に浸透した水は、地熱と出会うことで温泉となって地上に湧き出し、私たちを癒してくれます。

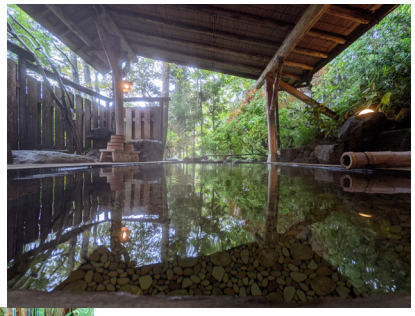
行程

循環する水が媒介となって、人と森との繋がりを学ぶ一日のコースです。

地域の温泉宿に宿泊
→南原穴堰の見学（1.5時間）
→昼食（1時間）
→鳴子ダム直下のウォーキング（2時間）

鳴子の温泉
地熱エネルギーを体感する

→14ページへ



南原穴堰
370年の間、一本の水路が支えてきた地域の暮らし

→9ページへ

鳴子ダム
1957年完成の日本最古級アーチ式ダムが支える下流の暮らし

→10ページへ

サスティナヴィレッジ鳴子

持続可能な循環型・脱炭素型の地域協働プロジェクト

木材のカスケード利用＝木材の副産物利用、林地残材利用によって建築、家具、再生可能エネルギーという新しい産業を創出することを目的とした施設。地元産スギ材と自然素材を使用し、板倉工法で建築されたメゾネットタイプの賃貸アパート。各住戸の給湯や冷暖房は、同敷地内に建設したCHP: Combined Heat and Power（小型木質バイオマスガス化熱電併給ユニット）プラントから供給しています。森林資源の循環から生まれる木質バイオマスをエネルギー源とし、住人のサスティナブルな暮らしを支えています。

CHPは、地元で間伐されたスギ材をチップ燃料として使用することで、木材資源の有効活用につながり、さらに、雇用創出にも貢献します。CHPによる地域熱供給は日本で初めての取り組みです。

概要

地域産材を活用した木質バイオマスエネルギー事業視察ツアーです。根や枝葉、樹皮といった余剰林材を活用した発電事業と、発電の際に発生する余剰熱を温水として集合住宅へ供給する熱供給事業を視察します。

また、地域産材で建てられた供給先の集合住宅の見学も併せて行い、森が生む木を余すことなく活用するカスケード利用の理解を深めます。

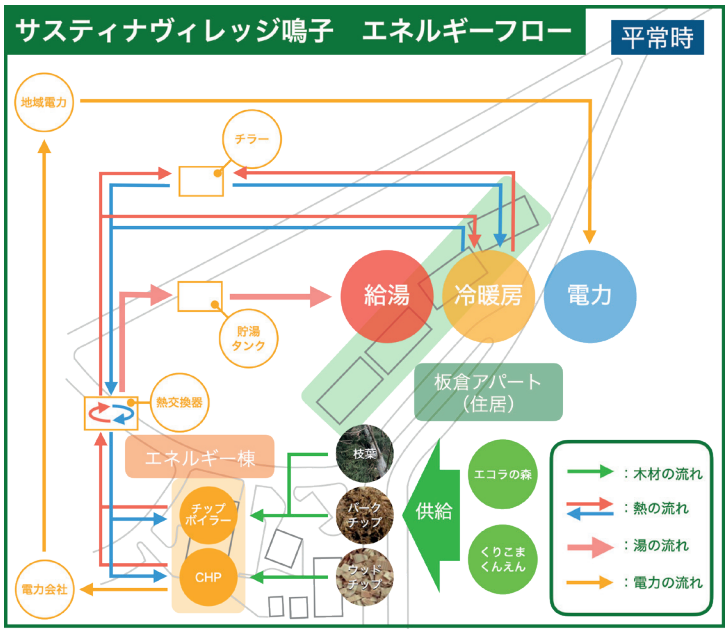
特徴

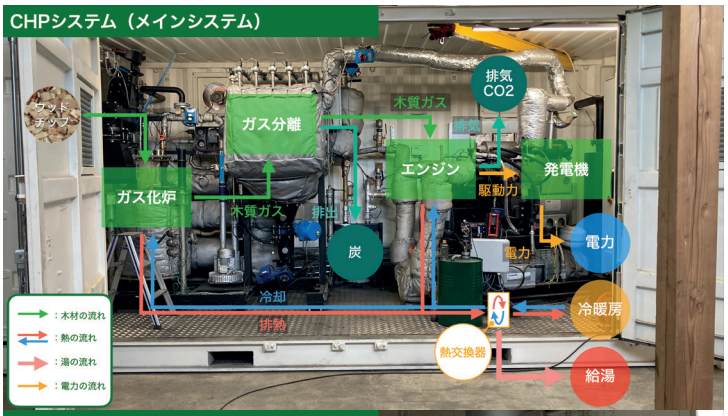
日本初の地域で循環する木質バイオマスエネルギー事業です。先進的な地域循環の取り組みを学びます。

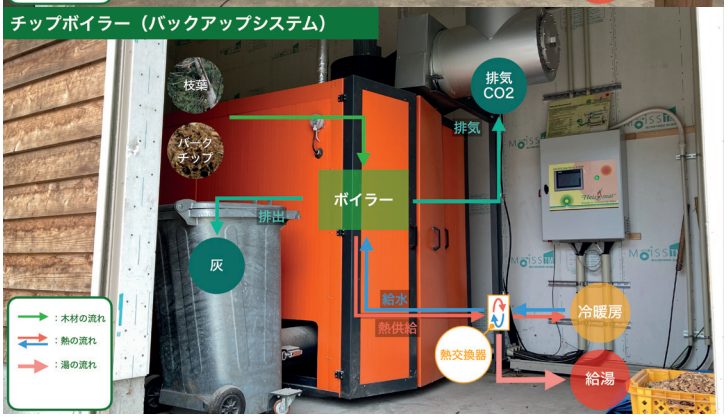
【特徴的な樹種】スギ

DATA

所在地：　宮城県大崎市鳴子温泉字沢74-21
所要時間：　2時間
料金：　5,500円/人　＊学習旅行の場合3,300円/人







エコラの森

100年の森づくりに取り組む再生をつづける鳴子の森

エコラの森を整備しているNPO法人しんりんは、大型の林業機械を使用せず、サスティナブルな「ハイブリット林業」と名付けた馬や牛、人と小型機械を活用した方法で100年の森づくりに取り組んでいます。間伐した材は「サスティナヴィレッジ鳴子」の建材、燃料として使われます。

樹の皮をむくことで、水を吸い上げられなくし、乾燥させて枯らす「皮むき間伐」が行われています。半年ほどで木の重量は半分ほどになり伐採もしやすく、人の手で持ち上げ運ぶこともでき、重機に頼らず森を傷つけない間伐ができます。

年数回の継続的な植林活動を行なっています。代々行われてきた次世代のこけし工人ための植樹活動を受け継ぎ、2019年に300本のミズキを植えて以来「こけしの森」を育む活動を継続しています。

概要

従来型の林業とは異なる、択伐・間伐型の林業の現場を見学するツアーです。ガイドとのもり歩きを通じて、針葉樹と広葉樹といった樹種の違いや、森林の生態についても学びます。

特徴

林業の現場の森をガイドと歩く。自然だけでなく、森と人との関わりについて学べる。

【特徴的な樹種】アカマツ、スギ、クロモジ、モミジイチゴ、イタヤカエデ、サンショウ、ミズキ

DATA

所在地：　宮城県大崎市鳴子温泉字玉ノ木70
所要時間：　3時間
料金：　3,000円/人、別途ガイド料として15,000円
（ガイド1人につき最大5名まで対応可能）

南原穴堰【世界農業遺産】

370年の間、一本の水路が支えてきた地域の暮らし

江戸時代(1640年代)に作られた手掘りの灌漑用水路です。南原地区は、周囲の大きな河川より標高が高く、用水の確保が困難でした。総延長1,880m、トンネル部分が1,330mの用水路では、住民による年数回の継続的な維持活動を行っています。

厳しい自然環境下で食料と生計を維持するため、「水」の調整に様々な 知恵や工夫を重ね発展してきた大地が『大崎耕土』なのです。

【概要】

南原の集落から穴堰の出口「穴尻」までを歩くウォーキンググガイドツアー。

地図では感じにくい目と鼻の先を流れる川との高低差や、山から引く水の冷たさ、苦労の末に作り続けているコメの美味しさに触れる。

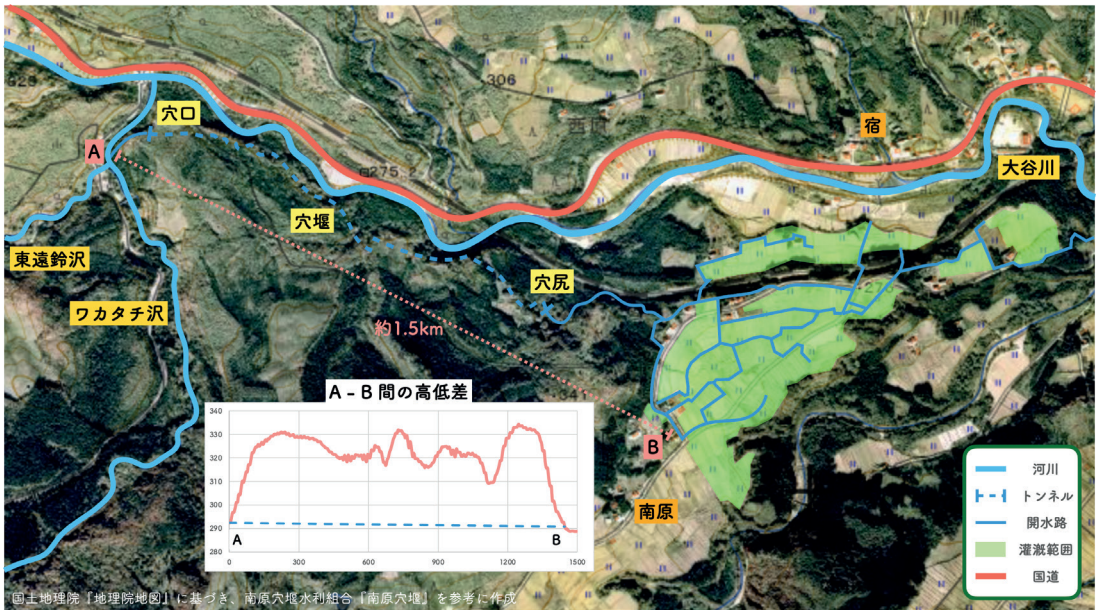
【特徴】

世界農業遺産に認定された地域循環を支える水管理の仕組みを、五感で学ぶ。

【特徴的な樹種】スギ、ホオノキ、ケヤキ

DATA

所在地:　宮城県大崎市鳴子温泉南原地内
所要時間:　3時間(軽食つき)
料金:　5,000円/人



鳴子の米プロジェクトとむすびや

2006年にスタートしたプロジェクト

地域の過疎化や標高の高さに起因する冷害への危機感から、寒さと病気に強い低アミロース米「ゆきむすび」を栽培しています。

地域の宿や、一般の方が前払い購入することで、作り手を支えるCSA(Community Supported Agriculture)によるコメづくりが行われています。

Food and Agriculture Organization of the United Nations
Globally Important AGRICULTURAL HERITAGE Systems

鳴子ダム 【世界農業遺産】

1957年完成の日本最古級アーチ式ダムが支える下流の暮らし

洪水の防止、農業用水の供給、発電を目的とした多目的ダム。日本人技術者だけで作られた日本最古のアーチ式ダムです。

大崎地域は「江合川」「鳴瀬川」の流域に広がる野谷地や湿地を利用し、水田農業地帯として発展してきました。山間部の急勾配地帯から平野部の緩勾配地帯に変化する地形が原因で おこる渇水・洪水などの問題が人々を悩ませてきました。上流部である鳴子の森づくりが、下流部を潤す水づくりにつながっています。

【概要】

日本土木遺産に認定された日本最古級のアーチ式ダム堤体直下まで、ガイドと歩くウォーキングツアー。森づくりが豊かな水資源を作り、豊かな水資源が日本有数の大穀倉地帯「大崎耕土」(世界農業遺産)を潤し、豊かな米産へと繋がって行く。水を介在した一次産業のつながりを学ぶ。

【特徴】

通常非公開の堤体直下までの谷沿いの歩道を歩き、ダム堤体に触れられるほど近づける特別な体験。

【特徴的な樹種】アカマツ、スギ、サワグルミ、
ヤマウルシ、イタヤカエデ

DATA

所在地:　宮城県大崎市鳴子温泉字岩渕2-8
所要時間:　2時間
料金:　6,000円/人

農家のぬくもり弁当

風景を大切にするお弁当

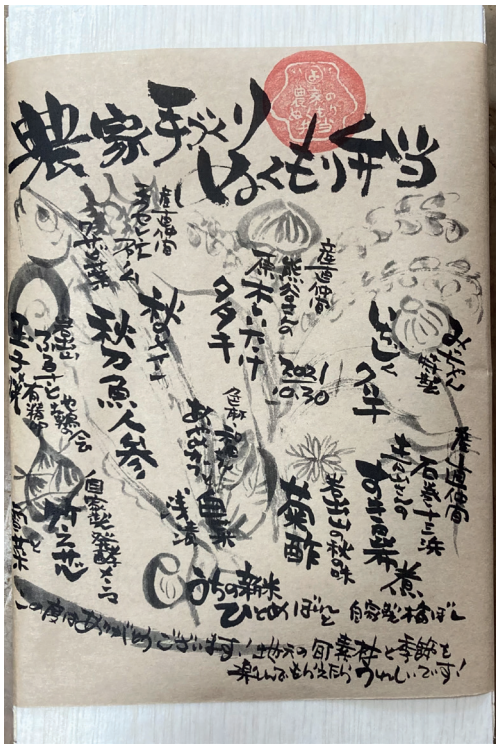
旅を彩る食。おいしさや華やかさだけでなく、地域の生産者にも目を向けてみませんか。鳴子温泉地域の東隣、大崎市岩出山地域は米作りを中心に古くから農業が盛んな地域です。

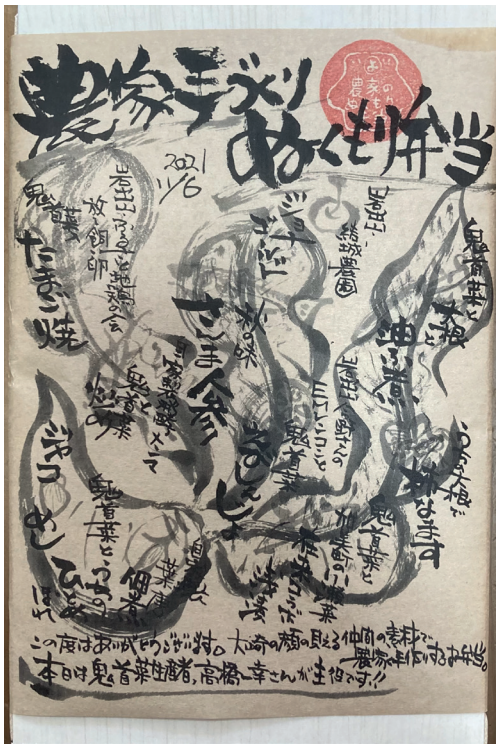
岩出山で農家を営むよっちゃん農場の手づくり弁当「農家のぬくもり弁当」は、仲間の農家、美味しいと思った仲間の野菜・食材を使って、ふだん自分たちが当たり前に「うまい！」と食べるものを詰め込んだ手作りのお弁当です。

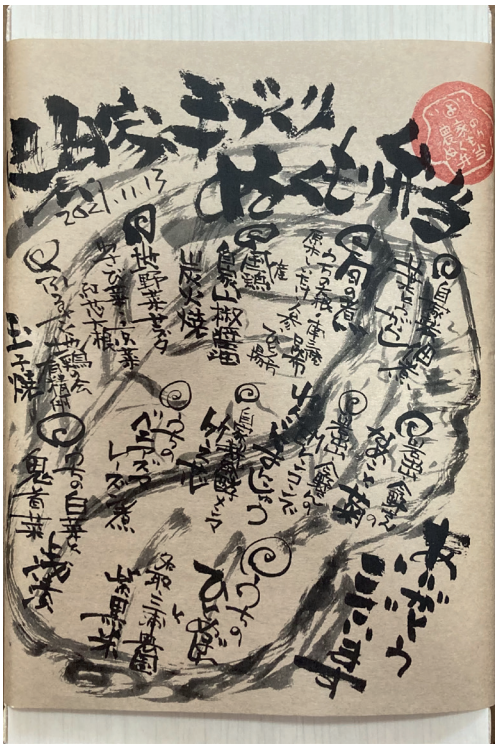
農業を通じて「食」「姿」を発信する、地元・地域もフワッと浮かんでくる顔の見える弁当を目指しています。

DATA

料金：　1,000円から/人
数量に応じて要相談





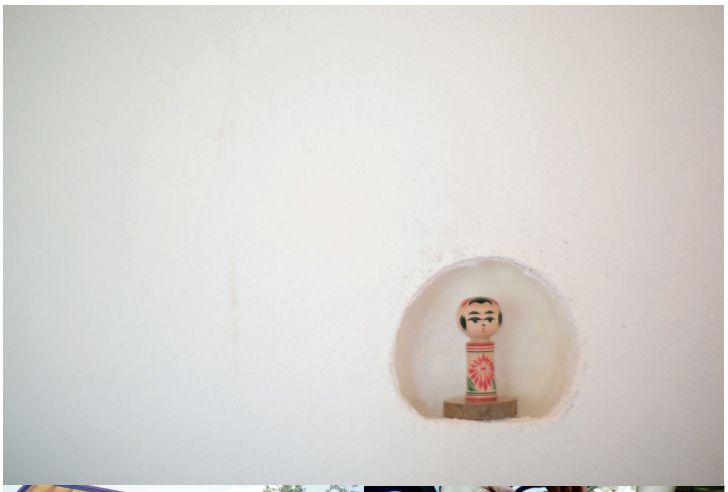


木を使ったものづくり

カガモク

夫婦の地域づくりユニット。カフェをしたりこけし雑貨を作ったりしながら、地域を豊かにするためにいろいろな活動に取り組んでいます。

カガモクのこけし雑貨は伝統こけしを尊重した伝統「風」こけし雑貨です。こけし雑貨を通じ、本物のこけしや工人さん、こけしの産地への関心を深めてもらえたら幸いです。たくさんの人に鳴子に来てほしいという思いから、店頭での販売を中心に行っています。ぜひ温泉に浸かって、宿に泊まり、鳴子を満喫しながらお買い求めにいらしてください。



DATA
所在：　宮城県大崎市鳴子温泉字川渡49

桜井こけし店

鳴子こけしの創始者といわれる大沼又五郎より受け継ぎ、江戸時代からこけしを作り続ける「桜井こけし店」。現在で5代目と6代目が制作を続ける、歴史を持つこけし店です。

2019年からこけし作りに使われるミズキの木の植林事業を行っています。ミズキの苗が成長してこけしの材料として使えるようになるまで、20年から30年ほどと言われます。次代のためにミズキの植林をしてきた先代工人たちの活動を受け継ぎ、エコラの森での植林を毎年行っています。

DATA
所在：　宮城県大崎市鳴子温泉字湯元26-9

もりたびのおみやげ

「もりたび」のおみやげは古くて新しいおみやげです。鳴子温泉の資源や歴史に根ざし、世代をこえて手にとっていただける「鳴子らしい」おみやげづくりを心がけています。

温泉宿の浴衣デザイン復刻プロジェクト

温泉といえば浴衣！しかし、宿独自のデザインは失われつつあり、浴衣の画一化が進んでいます。鳴子温泉もりたびの会では、宿ごとに違う浴衣デザインを地域の資源と考えて、岩手県一関市で創業以来100年続く染め物屋さんや、地元デザイナーさんの力を借り、デザインを復刻した手ぬぐい地の「おみやげ」を作りました。

MoriTabi Tenugui

デザイン
日晴りデザイン
佐竹歩美

デザイン
Sun Design
P太郎

もりを旅する鳴子の器プロジェクト

鳴子の漆器をもっと気軽に外遊びにも使いたいという想いから、地元の木地作家さん、塗師さんと共に「Tabi椀」を作りました。まちで大切に保管されてきた漆器からデザインを復刻して、地元材を挽いた木地を漆で仕上げました。あなたと旅する小さな椀です。

Tabi椀

木地・デザイン
工房とみはり
富張菜々子

漆塗り
うるしものヤマミチ舎
サトウショウタ

もりたび会　会員の宿

バイオマスや温泉熱など地産エネルギー利用を実践する
もりたびの会の宿に泊まってエネルギー利用について考えてみませんか

❶ 山ふところの宿　みやま

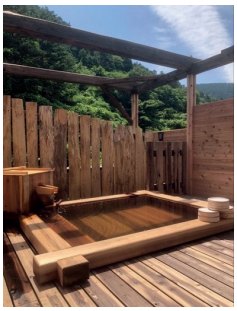
http://www.yado-miyama.com/

キッチン付き自炊可能な本館（6畳和室）５室と木造りにこだわった別館（10畳・トイレ付和室）5室の里山の小さな一軒宿です。

住所	大崎市鳴子温泉字要害91
電話	0229-84-7641

❷ 扇屋

http://naruko-oogiya.co.jp/

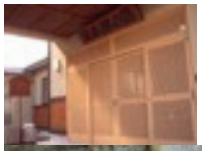


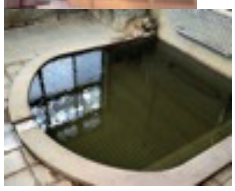
古くから“やはたの湯”で親しまれてきた自家源泉掛け流しの「星や月が眺め開放感がある貸切露天風呂」と「眺望がいい内風呂」でどうぞ名湯をご堪能ください！pH8.9クレンジング効果でお肌つるつる！貸切露天風呂はR2年7月にリニューアルオープン！鳴子産の杉をつかった浴槽と鳴子の湯とのコラボ。

住所	大崎市鳴子温泉字新屋敷38-1
電話	0229-83-3205

❹ 東五郎の湯　高東旅館

http://takato-touji.sakura.ne.jp/





自炊の湯治を中心とした昔ながらの「湯治宿」です。当館の温泉は熱いですが我慢して入っていると、自律神経の交感神経が優位になり、アドレナリンが増長します。額から汗が垂れたら、上がります。窓からの自然が、開放感を増長し副交感神経が優位となりリラクゼーションが訪れます。この二つの交感神経の働きにより自律神経活性化を促し、免疫力の強化に繋がるのです。

住所	大崎市鳴子温泉字築沢23-1
電話	0229-84-7220

❸ 旅館大沼

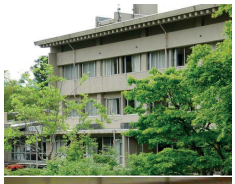
http://www.ohnuma.co.jp/

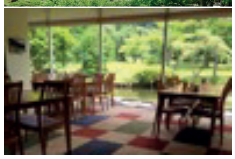
百年の歴史を持つ湯治宿。8つの個性あふれるお風呂が楽しめ、うち5つは貸切で利用できます。玄関には地元で作られたペレット燃料によるペレットストーブがあり、高温の源泉を利用した温泉暖房も古くから行っています。

住所	大崎市鳴子温泉字赤湯34
電話	0229-83-3052

❺ 玉造荘

https://www.kourituyasuragi.jp/naruko/





広大な土地を利用して、使用料無料のグラウンドゴルフ場を整備しています。独自の水源を所持しており天然水を使用しています。

住所	大崎市鳴子温泉字川渡62
電話	0229-84-7330

❻ 湯あみの宿　ぬまくら

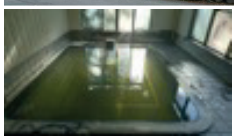
http://www.spa-numakura.jp/

全館バリアフリー設計で車椅子の方をはじめ、どなたにも安心してお泊まりいただけます。館内の暖房は、1日の総湧出量12万リットル以上の自家源泉を利用した、温泉熱交換でまかなっています。

住所	大崎市鳴子温泉字川渡38-1
電話	0229-84-7253

❼ 藤島旅館

http://www.naruko.gr.jp/ryokan-fujishima/fujishimaryokan-1.htm



創業400年超。川渡温泉に鎮座する「温泉石神社」を祀る老舗旅館です。「真癒の湯」は文人たちの愛した名湯。伝統の木造建築で、湯治棟を併設しています。2,000坪の日本庭園が自慢です。

住所	大崎市鳴子温泉字川渡84
電話	0229-84-7412

❽ 旅館ゆさ

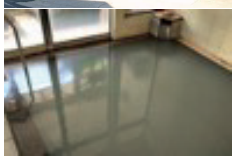
http://www.ryokan-yusa.com/

自家栽培の米と野菜をふんだんに使った手作りにこだわったアットホームな温泉宿です。地元の木材を使った薪ストーブの炎に癒されてください。

住所	大崎市鳴子温泉字新町下52-1
電話	0229-84-7676

❾ 越後屋旅館

https://echigoyaryokan.com/



２つの源泉「濁り湯の硫黄泉」と「美肌の炭酸水素塩泉」が自慢の家庭的な宿です。食事は地のものを頂く季節の郷土料理です。

住所	大崎市鳴子温泉字川渡24-9
電話	0229-84-7005

アピールポイント

自家源泉　地元材　温泉熱交換　バイオマス

鳴子の自然を楽しむ7つの方法

自然は私たちのかけがえのない資源です。そんな自然の中でのアクティビティを持続的に楽しめる様、私たちは自然環境に与える影響を最小限にした責任あるアウトドアの楽しみ方を推奨しています。

1. 計画と準備

・行先のルールや注意することを知る
・悪天候や緊急時に自分で備える
・ピークシーズンや混雑する時間帯を避ける
・できる限り少人数のグループで活動する
・できる限りゴミが少なくなる様にパッキングする

2. 土地への影響を最小に

・岩、砂、雪、草地など頑丈な土地の上で活動する
・指定のトレイルやテントサイトを利用する
・トレイルがドロドロでも真ん中を歩く

3. ゴミの影響を最小に

・すべてのゴミを持ち帰る
・トイレは水辺、トレイルから60m離れたところに見つける
・トイレットペーパーは持ち帰る
・食器は水辺から60m離れたところで、最小限の天然洗剤で洗う
・食べかすはこし網で取り除く

4. 見たものはそのままに

・石、植物等すべての自然物は持ち帰らない
・外来生物を運ぶこと、持ち込むことを避ける

5. 火の扱い

・できる限りストーブを使う
・たき火をするときは焚き火台を使う
・たき火の大きさは必要最小限にする
・薪には手で折れる程度の落ちている枝だけを使おう
・すべての薪が灰になるまで燃やす

6. 野生動物の尊重

・野生動物は遠くから観察する
・野生動物にエサをあげない
・食べ物に野生動物が近づかないようにする

7. 他のビジターへの配慮

・他のビジターの体験の質を保とう
・他のビジターとスペースを譲り合おう
・他のビジターとすれ違うときは登りの人を優先に
・休憩はトレイルから離れて行う
・自然を静かに楽しもう

私がガイドします！

SomeSpice

代表　齋藤　理　SAITO, Osamu
福島生まれ、宮城育ち。仙台電波高専を卒業後、自動車の制御システム開発に従事。鳴子の風景に魅せられて「地域おこし協力隊」として2017年に移住。地形の成り立ちと植生、歴史の話が得意。山とカレーが好き。温泉ソムリエマスター。

鳴子温泉もりたびの会の
スタディツアー
2022年度版

発　行　2022年1月30日　初版発行

監　修　島島価値創造事務所　陳柏翰

編　集　株式会社コー・ワークス

発行者　鳴子温泉もりたびの会
〒989-6711
宮城県大崎市鳴子温泉字沢74-21
https://moritabi.org

Desinged by Osamu in Naruko
©2022 Moritabi
無断転写、転載、複製は禁じます。
この資料は、観光庁令和3年度「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」の補助を受けて作成されました。